

- 非大都市圏におけるコーホートの人口変動と人口規模……清水昌人（国立社会保障・人口問題研）
 長期的な人口変動の分析への『全国学校総覧』の利用可能性—1960～2015年の大阪府の事例
 ……………桐村 喬（東京大学）
- 1930年代の東京市における工業立地，郊外化および通勤流動の関係 ……………谷 謙二（埼玉大学）
- カンボジアにおける英語教育サービスの成長とフィリピン人教師の出稼ぎ
 ……………広田麻未（横浜国立大学・院）
- ドイツにおける日本人向け人材会社の活動 ……………由井義通*（広島大学）・神谷浩夫（金沢大学）
- オーストリア・チロル州における人口動態……………中川聡史（埼玉大学）
 （貴志匡博 記）

アメリカ人口学会2016年大会

3月31日～4月2日にかけて，アメリカ人口学会（PAA：Population Association of America）の2016年大会がワシントンDCにて開催された．本学会は，224の口頭報告セッション（各4報告）と11のポスターセッション（各100報告）からなる．様々なテーマについての報告が2日半の短い日程に凝縮され，会場はさながら年に一度の人口学のお祭りのような雰囲気にも包まれる．PAAの規模と質の高さは，人口学の学会として突出しており，世界の人口学における研究動向を知る上で重要な機会となっている．

当研究所からは，別府志海情報調査分析部室長，是川夕人口動向研究部主任研究官，余田翔平人口動向研究部研究員と筆者の4名が参加した．ポスターセッションにて，是川主任研究官が“Educational Attainment and Its Determinants of Immigrant Children in Japan: Focusing on High School Enrollment”，“Why Immigrant Women's Fertilities Are Lower Than That of the Native Women: An Analysis from the Own-Children Method Using the Micro-Data of the Japanese Population Census”の報告を，余田研究員が“Parental Divorce and Adolescents' Educational Outcomes in Japan”の報告を行った．筆者は今回は本大会での報告ではなく，昨年8月に参加したBerkeley Workshop on Formal DemographyのReception and Poster SessionというMember-Initiated meetingにて，“Counting Women's Work in Japan”という日本のNTA（National Transfer Account）ならびにNTTA（National Time Transfer Account）に関する報告を行った．

PAAでは，学会の場を利用して様々な団体が自発的な集まりを催している．Invited onlyの集まりもあるが，一般会員に公開されているセミナーやワークショップも多くある．例えば，今大会ではアメリカで最も長い歴史を持つパネル調査であるPanel Study of Income Dynamicsがユーザーに向けた説明会を開いていた．1968年に始まった世帯パネル調査がいまだ現役でデータ収集を続けていること自体驚きであるが，このような巨大なデータの分析は容易ではない（変数のみで8万を超える）．今回の説明会ではデータの構造や調査事項，世帯員の追跡ルールなどについて，実査に関わる研究者から丁寧な解説がなされた．また，Guttmacher Instituteの主催による“Ask Editors: Getting Published in Peer-Reviewed Journals”といわれるセミナーでは，人口学の有名雑誌の編集者を招き，どのような論文がAcceptされやすいのかについて話を聞く機会を提供していた．さらに同Instituteは“Using Research to Inform and Advance the Domestic Sexual and Reproductive Health and Rights Policy Debate”と題したセミナーも同時開催しており，政策議論に貢献する研究のあり方などが議論された．ともすると，見落としがちであるが，PAAに参加する際には，このようなセミナーやワークショップを覗いてみると思わぬ収穫があるかもしれない．

（福田節也 記）